

1. 重点地区の指定要件

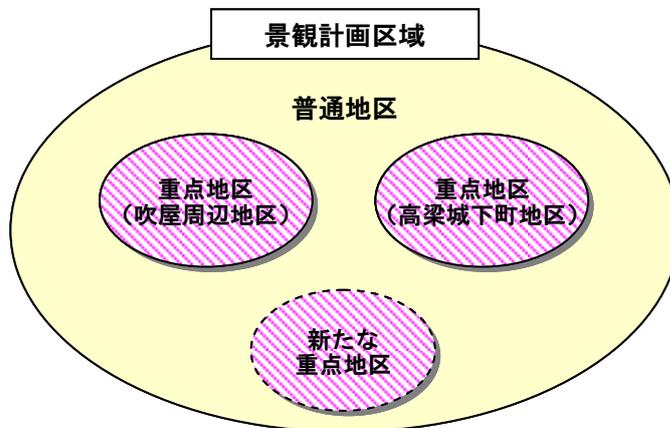
市全域で景観まちづくりを進める上で、下記の要件に該当する地区については、重点地区に指定し、積極的な景観形成を図ります。

重点地区の指定要件

- 本市を代表する優れた景観や眺望を有し、その保全の必要性や緊急性が高い地区
- 地域の拠点となる駅や市役所の周辺など、良好な景観を創っていくべき地区
- 大規模な公共事業や民間事業の計画があり、先導的に良好な景観を創っていくべき地区
- 地域住民の景観形成に関する意識が高く、まちづくりの機運が高い地区

「高梁城下町地区」と「吹屋周辺地区」は、「本市を代表する良好な景観や眺望を有し、その保全の必要性や緊急性が高い地区」として、これまで景観形成の取り組みがなされ、継続的に景観形成を図っていく必要があるため重点地区とします。

今後、地域の景観特性を踏まえ、地域住民との合意形成を図りながら、重点地区の範囲の拡大と新たな重点地区の指定をめざします。



2. 高梁城下町地区の景観まちづくりの方針



高梁城下町地区の景観まちづくり

【景観まちづくりの目標】

城下町のたたずまいを感じる景観まちづくり

高梁城下町地区は、臥牛山から愛宕山に続く山並み、石火矢町の武家屋敷、本町をはじめとする商家の町並み、東の山裾に連なる神社仏閣、紺屋川美観地区など、本市を代表する優れた景観を有しています。また、備中高梁駅から西へ延びる駅前大通り、北へ延びる城見通りは、本市の玄関口として魅力ある都市景観の形成が望まれます。駅東側においては、道路整備が進められ、愛宕山や松連寺の眺望を活かした潤いとゆとりのある新たな町並み景観の形成が期待されます。

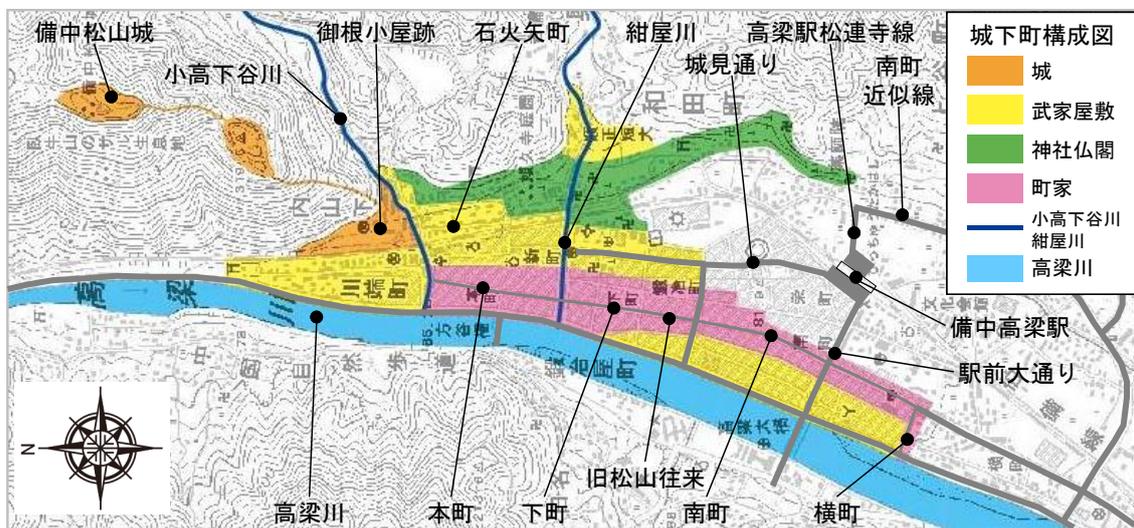
こうした地区固有の景観を守り、育て、活かしていく景観まちづくりの目標として、「城下町のたたずまいを感じる景観まちづくり」を掲げ、地域一体で取り組んでいきます。

■高梁城下町地区の景観構成

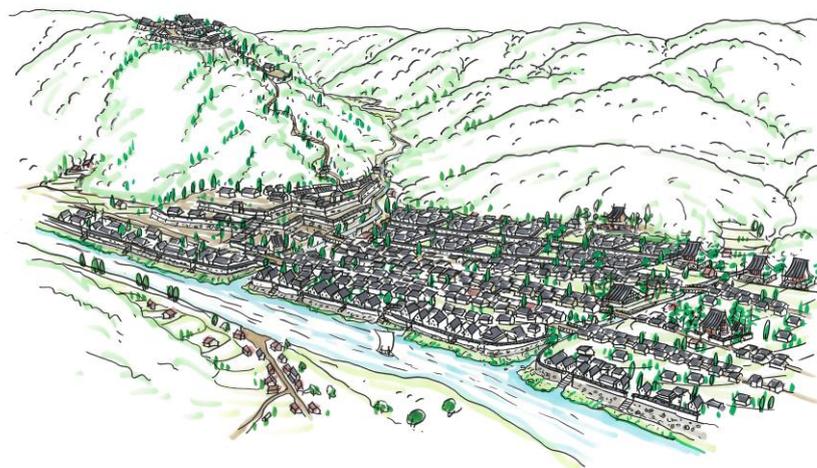
臥牛山から愛宕山に続く山並みは、町並みの背景となり彩りと潤いを与えています。

本地区の北にそびえる臥牛山には備中松山城があり、その麓の備中松山藩御殿が置かれた御根小屋跡を中心に、城下町は高梁川に沿って南に広がり、石火矢町の武家屋敷、城郭を思わせる石垣が特徴の神社仏閣、旧松山往来沿いの本町、下町、南町、横町に残る町家など、江戸時代の町割りを今も受け継ぐ歴史的な町並み景観が形成されています。

備中高梁駅が大正15年に開設されたことに伴い、城下町を越えて南に市街地が広がり、駅西側の駅前大通りと城見通り沿いには商店や事務所などが建ち並ぶ比較的新しい町並みが形成されています。また、駅東側には高梁駅松連寺線、南町近似線の道路整備が進められ、良好な町並み景観の形成が期待されます。



高梁城下町地区の構成図



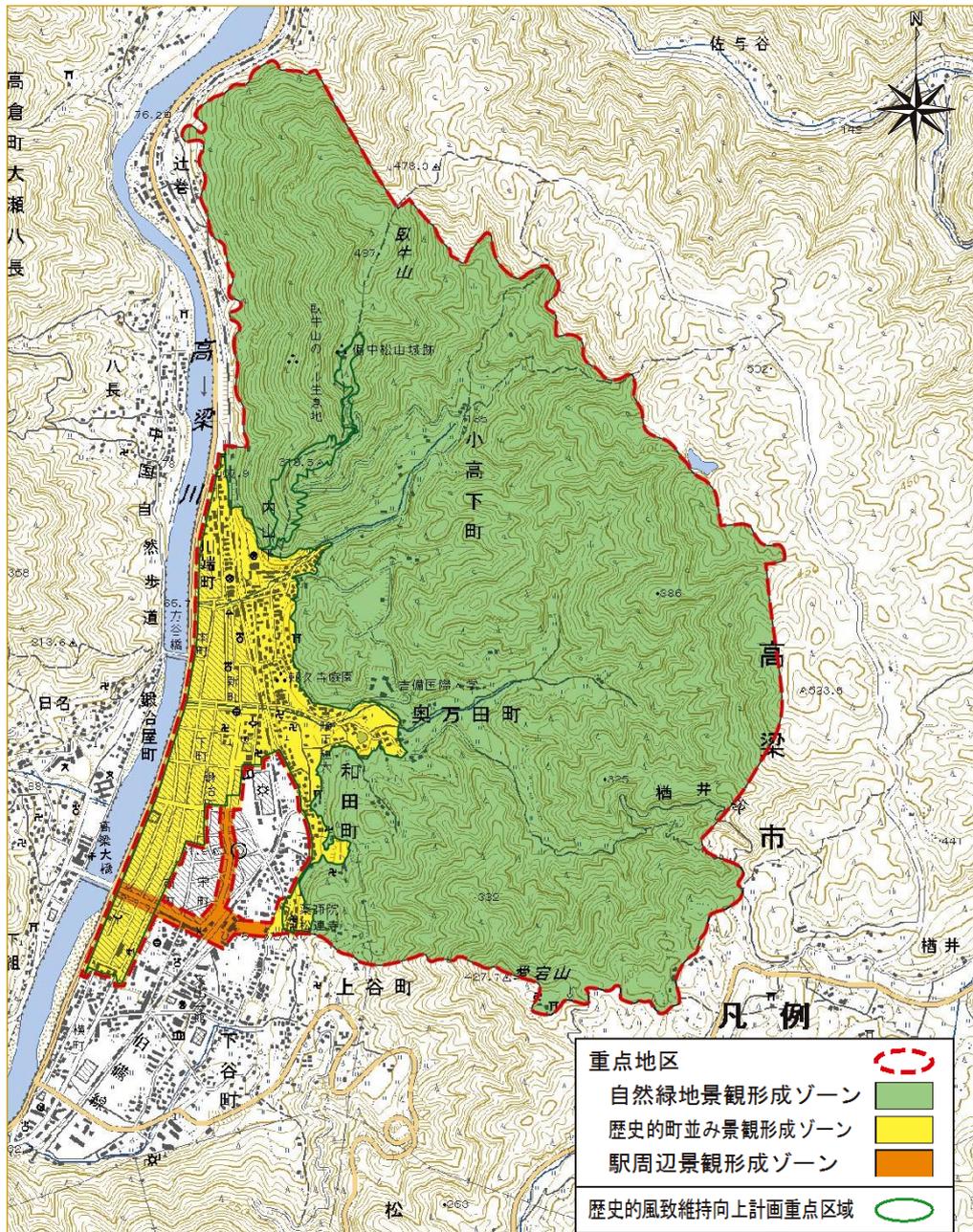
城下町の模式

※図は、現在の城下町の特徴となる景観を考える上で、江戸時代の武家屋敷、町家、神社仏閣、堀の役割を果たした河川を模式的に表示したものです。

■重点地区の範囲

高梁城下町地区は、歴史的な建造物や町並みの景観とその背景となる緑豊かな自然景観とが互いに調和し、一体となって優れた景観を呈しています。また、備中高梁駅周辺は、来訪者に本市の第一印象を与え、また歴史的な町並みへつなぐ玄関口となっています。

こうした地区の特性を活かした景観まちづくりを進めていくため、本地区を重点地区として定め、「自然緑地景観形成ゾーン」「歴史的町並み景観形成ゾーン」「駅周辺景観形成ゾーン」に区分し、ゾーン毎の特性を踏まえた景観形成を図ります。(下図参照)



高梁城下町地区の範囲とゾーン区分図

(1) 自然緑地景観形成ゾーンの基本方針

【自然の景観】

■景観特性

- ・臥牛山や愛宕山などの四季折々に美しい姿を見せる山々は、本地区の背景となり、町並みに潤いと安らぎを与えています。
- ・臥牛山からは吉備高原の山々に囲まれた市街地とその中央を南北に流れる高梁川を見渡すことができる良好な眺望地となっています。



臥牛山と市街地

■景観まちづくりの基本方針

～ 豊かな自然を守り育て、活かす景観まちづくり ～

- ・本地区の背景となる山々は、豊かな緑と四季を感じられるよう保全に努めるとともに、山並みに調和した町並み景観の誘導を図ります。
- ・臥牛山からの市街地の眺望を確保していくために、樹木の手入れや除草などの適切な維持管理に努めます。



臥牛山からの眺望

【歴史・文化の景観】

■景観特性

- ・緑豊かな自然林に覆われた臥牛山にそびえる備中松山城の天守や櫓、狭間のある土塀、大手門付近などの石垣は山城の壮麗な歴史的景観を形成しています。



備中松山城

■景観まちづくりの基本方針

～ 歴史・文化を守り育て、次世代へ継承する景観まちづくり ～

- ・備中松山城は文化財としての保存を図るとともに、周囲の自然と一体となった景観の保全に努めます。
- ・備中松山城は本市のシンボルとして、より一層魅力を高め、地域の活性化につながる景観づくりを図ります。



備中松山城大手門付近の石垣

【暮らしの景観】

■景観特性

- ・小高下町では、緑豊かな山々と一体となった美しい棚田と自然石を用いた小高下谷川の護岸が続き、備中松山城へのアプローチ空間の演出にもつながっています。
- ・奥万田町では、大学生や地域住民、高梁商工会議所などによる休耕地を利用した菜の花やコスモスを植栽する活動が行われ、地域の魅力ある景観づくりに取り組んでいます。



小高下町の棚田と自然石護岸

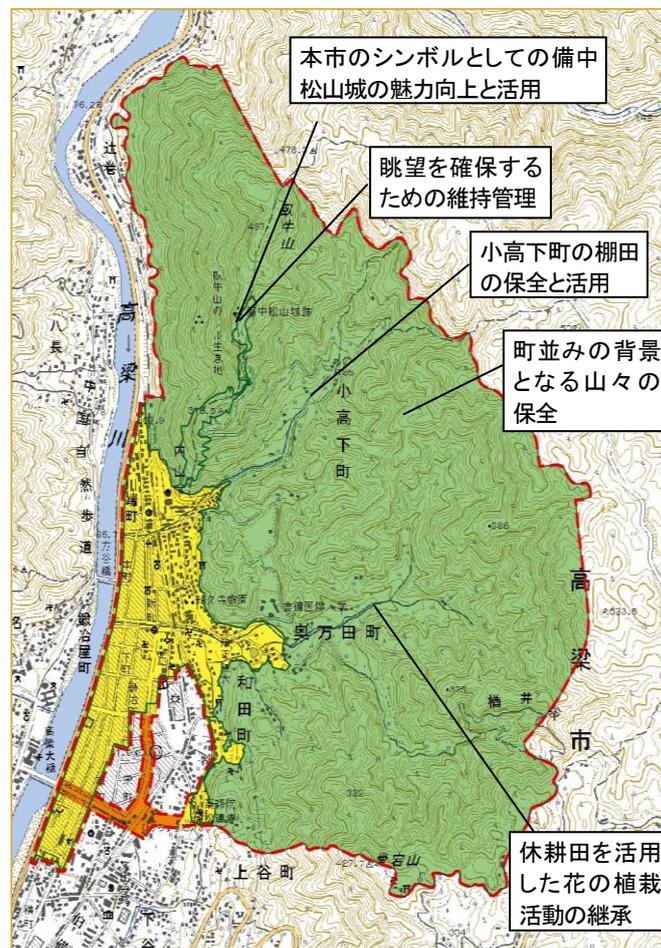
■景観まちづくりの基本方針

～ 誇りと愛着をもって暮らせる景観まちづくり ～

- ・奥万田町の休耕地を利用した菜の花やコスモスが一面に広がる風景は、地域の個性ある景観として継承に努めるとともに、こうした活動の輪を広げていき、花や緑で潤いのある景観づくりの促進に努めます。



休耕地での菜の花栽培
(奥万田町)



自然緑地景観形成ゾーンの基本方針図

(2) 歴史的町並み景観形成ゾーンの基本方針

【歴史・文化の景観】

■景観特性

- ・御根小屋跡から南へ延びる石火矢町は、連続する土塀と門構え、前庭の木々と主屋が、武家屋敷の趣を今に伝えています。
- ・松山往来と呼ばれた本町や下町、南町の通りなどでは、間口が狭く奥行き長い敷地の道路側に主屋が建ち、その背後に土蔵などの付属屋が連なる伝統的な町家が残され、城下町の面影を今に伝えています。
- ・市街地東側の山裾には重厚な石垣の上に築かれた頼久寺や松連寺などの寺院群が連なり、また静寂な鎮守の森に囲まれた八幡神社や御前神社などが点在しています。
- ・本町、新町、鍛冶町などには、商売繁盛のために市神様が祀られ、七恵比寿^{ななえびす}として今もその伝統が継承され、地区ごとに祭礼が営まれています。
- ・旧高梁尋常高等小学校本館、順正寮、高梁基督教会堂などの教育文化の歴史的建造物が数多く残され、町並み景観の特徴となっています。



石火矢町の武家屋敷



頼久寺



高梁基督教会堂

■景観まちづくりの基本方針

～ 歴史・文化を守り育て、次世代へ継承する景観まちづくり ～

- ・石火矢町や本町をはじめとする武家屋敷や町家などが残る地区では、伝統的建造物を保全するとともに、城下町の風情を感じさせる町並みに配慮した景観形成を誘導していきます。
- ・城下町の面影を色濃く残す通りを「景観形成道路」と定め、沿道景観の積極的な景観誘導により、城下町のたたずまいの保全と継承を図ります。
- ・市街地東側の山裾に連なる寺院群や地区内に点在する神社周辺の景観保全や眺望景観に配慮した景観づくりに努めます。
- ・七恵比寿は城下町の歴史を物語る地域固有の景観として保全・活用を図ります。
- ・本市の教育文化を伝える建造物の保全・活用を図り、地域の活性化につながる景観づくりをめざします。



景観形成道路



七恵比寿

【暮らしの景観】

■景観特性

- ・武家屋敷の町割りを残す地区では、土塀と門を有する和風の住宅が数多く見られます。町家の町割りを残す地区では、伝統的な店構えを継承した老舗や町家を活用したカフェなどの新たな店舗が見られます。
- ・紺屋川美観地区は、市街地の東西を流れる紺屋川とその川沿いの桜や柳をはじめ、有終館跡のクロマツと土塀、町家、土蔵などが調和した情緒あふれる景観を形成し、桜の咲き誇る春には多くの来訪者でにぎわいます。
- ・江戸時代からの町名や小路が今もそのまま残され、人々の暮らしの中に息づいています。
- ・本町の住民により開催される「町家通りの雛まつり」では、玄関などに雛人形が飾られ、多くの観光客や市民が集うにぎわいのある町並み景観が創出されています。



町家を活用したカフェ



紺屋川



まちかどの町名板



町家通りの雛まつり

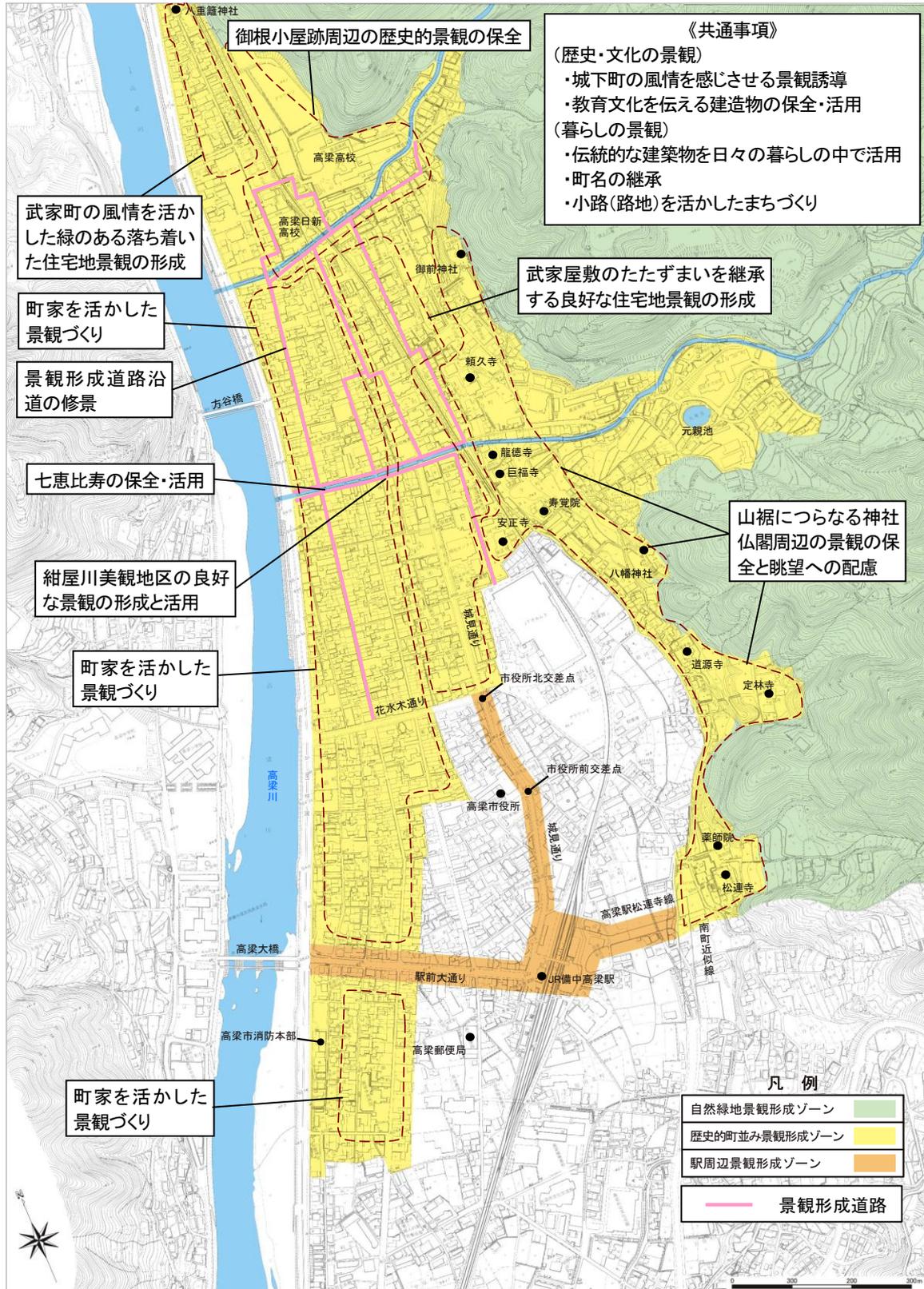


まちかどの花の寄せ植え

■景観まちづくりの基本方針

～ 誇りと愛着をもって暮らせる景観まちづくり ～

- ・武家屋敷や町家などの伝統的建造物を日常の暮らしの中で守り活かしていく景観づくりをめざします。
- ・紺屋川美観地区は、川の流れや川沿いの桜・柳の並木、建造物との調和を図り、地域の活性化へつながる景観づくりをめざします。
- ・城下町の歴史を伝える町名は、町それぞれの歴史と特徴を表わすものとして継承します。
- ・小路は地域の防災性や交通利便性を配慮しながら、沿道の緑化や美化・清掃活動など、路地空間の風情を活かしたまちづくりに努めます。
- ・地域の特色ある祭りを通じて、地域住民と来訪者の交流を図り、にぎわいと活気の創出に努めます。



歴史的町並み景観形成ゾーンの基本方針図

【景観形成道路】
 武家町・商家町・寺院群として城下町の面影を色濃く残す通りを景観形成道路と定め、道路の修景を図るとともに、沿道の建築物及び塀などの工作物について積極的な景観誘導を図ります。

(3) 駅周辺景観形成ゾーンの基本方針

【駅前大通りの沿道】

■景観特性

- ・備中高梁駅から西へ真っすぐ延びる駅前大通りは、吉備高原の山々を背景に、歩道の整備と無電柱化によりすっきりとした道路空間が形成されています。
- ・お盆には江戸時代からの伝統を持つ松山踊りが行われ、本市を代表する夏の風物詩となっています。



松山踊り(駅前大通り)

■景観まちづくりの基本方針

- ・駅前大通りは本市の玄関口であり、来訪者に本市の第一印象を与える重要な通りとして、にぎわいの中にも落ち着きが感じられる魅力ある町並み景観の形成をめざします。
- ・沿道の建築物は、壁面の位置を揃え、低層部の軒高や日よけテントの高さを揃えるなど、連続性のある町並み景観の形成をめざします。



駅前大通り

【城見通りの沿道】

■景観特性

- ・備中高梁駅から北へ延びる城見通りは、駅と主要な観光地を結び、市民のみならず来訪者も多く利用する重要な道路です。
- ・主要な交差点などからは臥牛山を眺望することができ、町並みに潤いと安らぎを与えています。



城見通りからの臥牛山の眺望

■景観まちづくりの基本方針

- ・城見通りは備中高梁駅から歴史的な町並みをつなぐ玄関口として、にぎわいの中にも落ち着きが感じられる魅力ある町並み景観の形成を図ります。
- ・沿道の建築物は通りからできるだけ後退し、ゆとりのある空間の確保に努めるとともに、城下町の風情を感じさせるような和風の趣のある町並み景観の形成を図ります。



城見通り

【高梁駅松連寺線の沿道】

■景観特性

- ・備中高梁駅の東側は、愛宕山や松連寺などを背景として農地が広がり、低層住宅やアパートが点在しています。
- ・都市計画道路高梁駅松連寺線の整備が進められており、新たなまちなか生活エリアとしての景観づくりが期待されています。



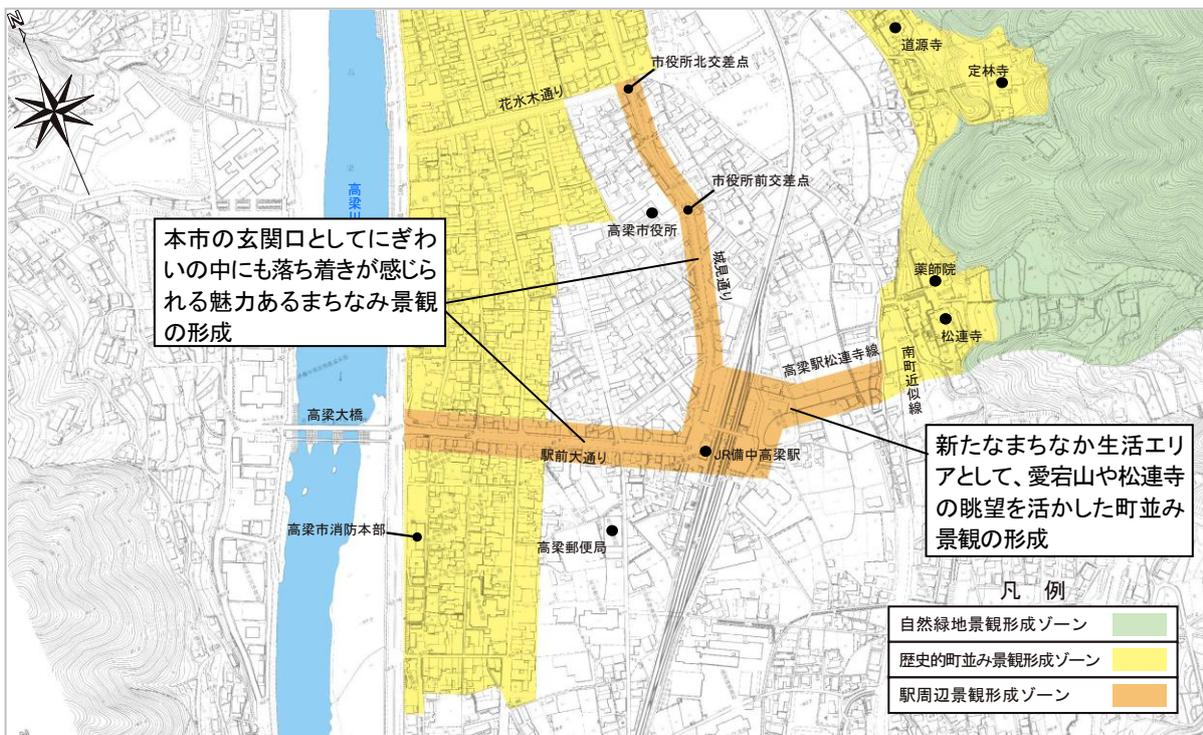
駅東側からの愛宕山と松連寺の眺望

■景観まちづくりの基本方針

- ・高梁駅松連寺線の沿道は、備中高梁駅の東側の新たなまちなか生活エリアとして、愛宕山や松連寺の眺望を活かした潤いとゆとりのある町並み景観の形成を図ります。
- ・沿道の建築物は、高梁駅松連寺線からの愛宕山と松連寺の眺望に配慮し、背景となる山並みや寺院と調和した潤いとゆとりのある町並み景観の形成を図ります。



愛宕山と松連寺



駅周辺景観形成ゾーンの基本方針図

3. 吹屋周辺地区の景観まちづくりの方針



吹屋の町並み

吹屋周辺地区の景観まちづくり

【景観まちづくりの目標】

緑に映えるベンガラ色の町並みを活かした景観まちづくり

吹屋の町並みは、赤褐色の石州瓦とベンガラ色の町並みを特徴として、昭和 49 年に岡山県の「ふるさと村」に指定され、昭和 52 年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されるなど、本市を代表する歴史・文化の漂う風景として大切に守り続けられてきています。

この吹屋固有の趣のある風景は、町並みだけではなく、周りを取り囲む山々の緑や銅山とベンガラで栄えた歴史が重なりあって作り出されています。

こうした吹屋の町並みを取り囲む山並みや歴史・文化の背景を含めた地区固有の景観を守り、育て、活かしていく景観まちづくりの目標として、「緑に映えるベンガラ色の町並みを活かした景観まちづくり」を掲げ、地域一体で取り組んでいきます。

■吹屋周辺地区の景観構成

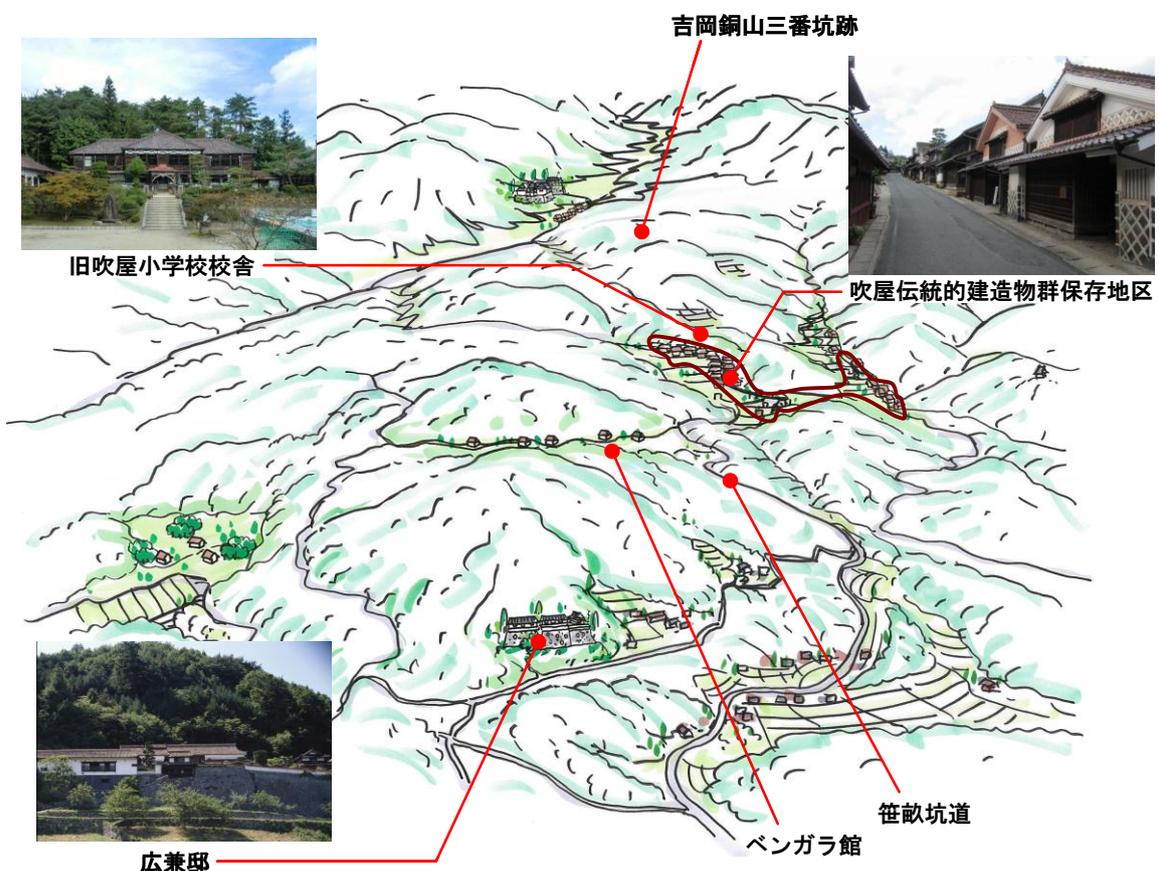
吹屋周辺地区の景観を概観すると、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「吹屋の町並み」を中心に、その町並みを取り囲む「吉備高原の山並み」、町並みの成り立ちを物語る「歴史・文化的な背景や資源」などの要素が重なりあって、地区固有の景観が形成されています。

【吹屋の町並みの成り立ちを物語る「歴史・文化的な背景や資源」】

吹屋は幕末から明治時代にかけて銅鉱とベンガラ産地として栄えた町です。その町並みは、ベンガラ豪商たちが石州から宮大工の棟梁たちを招いて、各町家をベンガラ格子と石州瓦屋根による統一を図りながら建築し形成されたもので、吹屋の歴史・文化を伝える遺産ともいえます。

吹屋の町並みの周辺には、笹畝坑道などの銅山跡、ベンガラ工場を復元したベンガラ館など、吹屋の歴史・文化を伝える資源が数多く残っています。

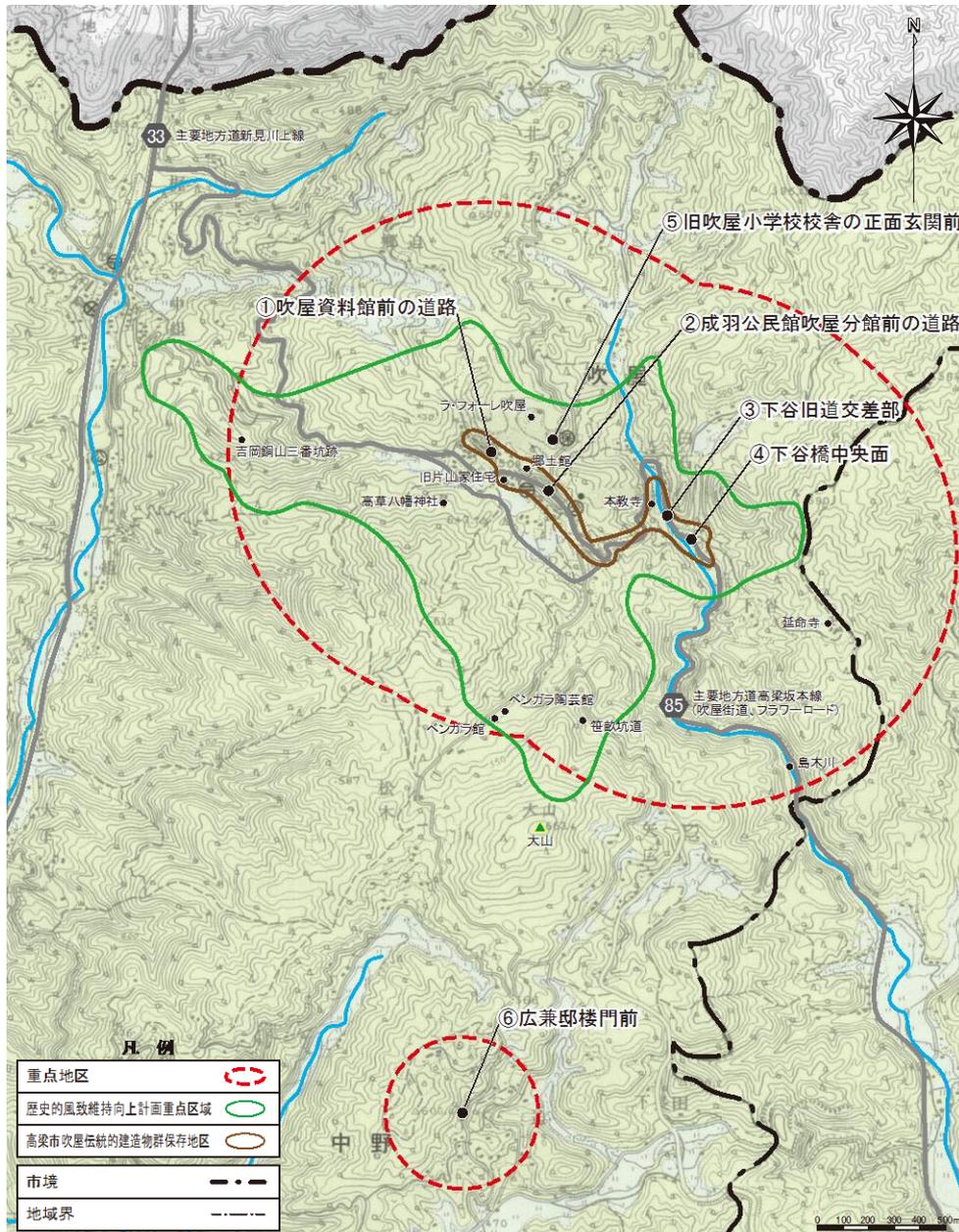
その中でも、城郭を思わせる雄大な石垣を有する広兼邸、平成24年3月まで日本最古の現役木造校舎であった旧吹屋小学校は、ベンガラ色の町並みとともに吹屋を代表する景観資源として挙げられます。



重点地区の範囲

吹屋周辺地区の重要な景観とその背景を保全するために眺望地点を6箇所設定し、そこからの眺望と吹屋周辺の歴史的・文化的な景観を構成している景観資源を含む範囲を重点地区とします。(下図参照)

主要眺望地点	重点地区の範囲
① 吹屋資料館前の道路	半径 1,000mの範囲
② 成羽公民館吹屋分館前の道路	
③ 下谷旧道交差部	
④ 下谷橋中央面	
⑤ 旧吹屋小学校校舎の正面玄関前	半径 300mの範囲
⑥ 広兼邸楼門前	



吹屋周辺地区の範囲と主要眺望地点

吹屋周辺地区の景観まちづくり基本方針

【自然の景観】

■景観特性

- ・吹屋の町並みを取り囲む山々の緑は、ベンガラ色の町並みを際立たせています。また、地区を代表する景観として挙げられる広兼邸や旧吹屋小学校校舎の背景となる森林は、景観を構成する重要な要素となっています。
- ・吹屋街道沿いを流れる島木川や、吹屋の町並みと広兼邸の中間に位置する大山^{おおやま}は、本地区の回遊性を高める上で重要な自然の景観資源となっています。

■景観まちづくりの基本方針

～ 豊かな自然を守り育て、活かす景観まちづくり ～

- ・吹屋の町並みなどの地区を代表する景観資源の背景となる山々は、地域ぐるみの保全活動を推進するとともに、豊かな自然と調和した建築物などの景観誘導を図ります。
- ・島木川は、草刈りや倒木の除去などの適切な維持管理に努めるとともに、町並みに潤いを与える貴重な自然環境として、親水性の創出に努め、水辺散策の場としての活用を図ります。
- ・大山は、安全な登山道の確保を含む適切な維持管理に努めるとともに、眺望地としての活用を図ります。



山々に囲まれた吹屋の町並み



広兼邸と背景の森林



旧吹屋小学校校舎と背景の森林



島木川



下町駐車場から見た大山^{おおやま}

【歴史・文化の景観】

■景観特性

- ・吹屋の町並みの周辺には、笹畝坑道、吉岡銅山三番坑、ベンガラ館、広兼邸、旧吹屋小学校校舎など、地域の歴史・文化を伝える資源が数多く残され、地域固有の優れた景観を形成しています。
- ・銅栄寺は、赤褐色の焼き色斑いろむらが美しく映える石州瓦の屋根が連なる吹屋の町並みを見下ろすことができる貴重な眺望地となっています。
- ・明治後期に建築され、110年以上の歴史を歩んできた旧吹屋小学校校舎は、吹屋のシンボルとして地域の人々に親しまれています。
- ・吹屋の町並みの南側の山中には、八十八箇所の石仏が置かれた全長約 3kmのお大師道があり、人々の信仰の文化を今に伝えています。



吹屋の町並みの眺め



笹畝坑道入口



ベンガラ館



旧吹屋小学校校舎



お大師道

■景観まちづくりの基本方針

～ 歴史・文化を守り育て、次世代へ継承する景観まちづくり ～

- ・地域の歴史を物語る豊富な景観資源は、吹屋町並保存会を中心とした地域住民と連携しながら保全を図るとともに、地域の魅力づくりに活用します。
- ・銅栄寺からの吹屋の町並みの眺望の確保に配慮した維持管理に努めるとともに、案内誘導サインの充実を図ります。
- ・旧吹屋小学校校舎は、子どもたちを育んだ住民の資産として、地域への誇りや愛着を高めつつ、周辺の自然景観とともに保全と活用を図ります。
- ・お大師道に点在する石仏は、周辺の里山景観と一体的な保全を図り、地域の個性ある歴史・文化の景観として継承します。

【暮らしの景観】

■景観特性

- ・本市を代表する景観資源である吹屋の町並みは、観光客が地域内を散策する様子が日常の風景となり、にぎわいのある町並み景観を形成しています。
- ・吹屋ベンガラ灯りや備中吹屋雛まつり、ヒルクライムチャレンジシリーズ高梁吹屋ふるさと村大会などの多彩なイベントや住民による観光ガイドへの取り組みが、にぎわいにつながり、町並みの魅力を高めています。
- ・山間に開けた農地や里山などの風景は、周囲の緑豊かな自然環境と調和した落ち着きのある農山村の景観を形成しています。



観光客でにぎわう吹屋の町並み



吹屋ベンガラ灯り

■景観まちづくりの基本方針

～ 誇りと愛着をもって暮らせる景観まちづくり ～

- ・吹屋の町並みをはじめ、その周辺の旧吹屋小学校校舎や広兼邸などの地域固有の歴史・文化的資源を活用したイベントや祭りの継承に努め、にぎわいや交流の場の創出を図ります。
- ・主要な広域観光ルートや散策ルートの道路沿いは、統一性のある分かりやすい案内板の充実や地域ぐるみの除草や植栽などの美化活動を推進し、地域全体の魅力向上につながる沿道景観の向上を図ります。
- ・広兼邸などの地域を代表する景観資源周辺の里山や棚田などの農地の風景は、地域住民と連携しながら自然と調和した良好な農山村景観の保全に努めます。



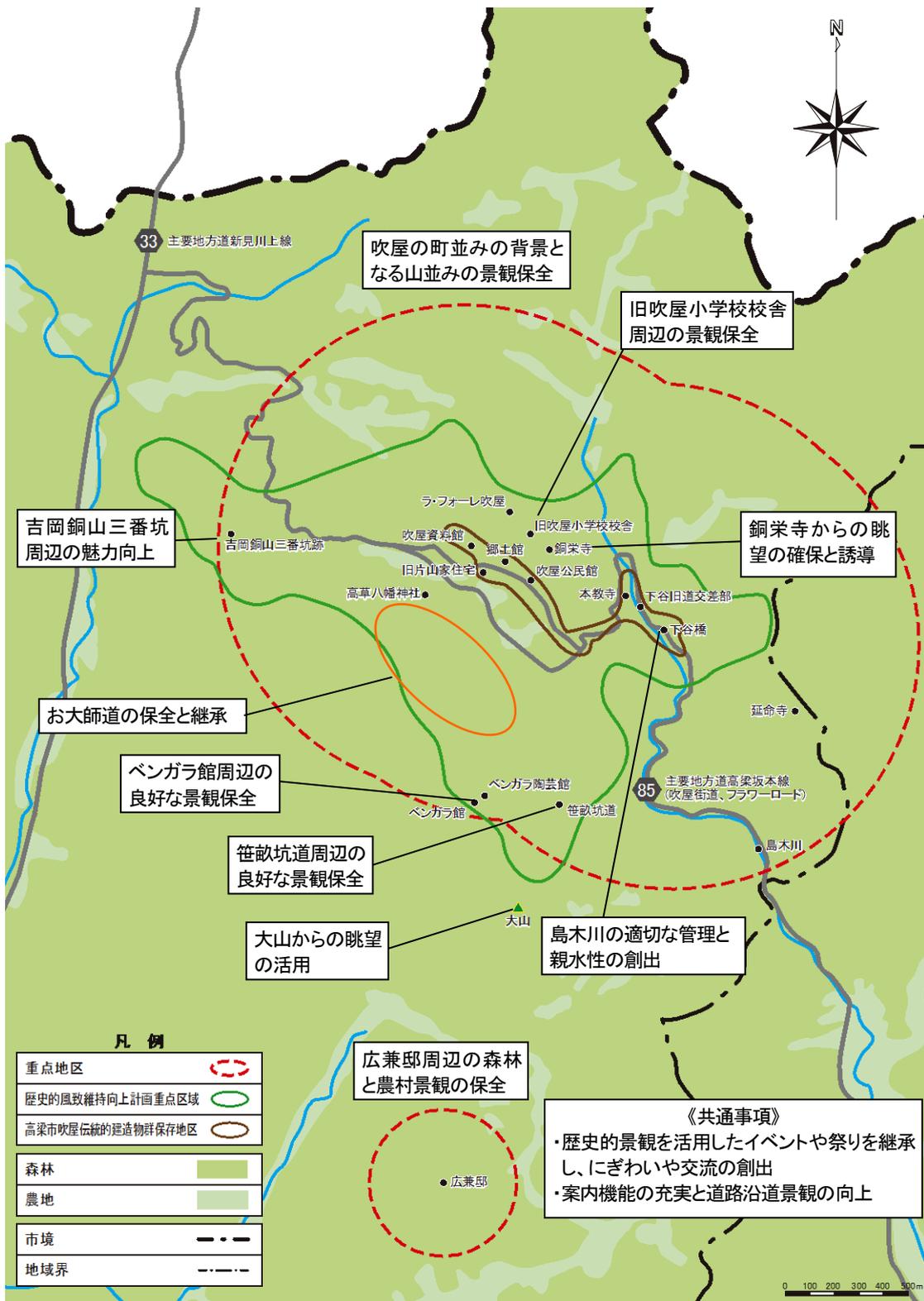
旧吹屋小学校周辺の案内板



吹屋町並保存会による観光ガイド



広兼邸からの農地の眺望



吹屋周辺地区の景観まちづくり方針図